校長だより

私が旅した国で最も心に残っているのが中東のヨルダンです。映画好きの私は、その影響を受けて、

アカバ(「アラビアのロレンス」第一次世界大戦での歴史的に重要な町)、
ワディーラム(中東のグラウンドキャニオン「アラビアのロレンス」のロケ地)、
ペトラ(「インディージョーンズ最後の聖戦」ロケ地。世界遺産)、
シナイ半島(「十戒」旧約聖書の舞台でもある歴史的な土地及び映画ロケ地)、
死海(「十戒」旧約聖書にも出てくる歴史的な土地・塩分濃度が高く自然と体が浮かぶ)

というヨルダンの各地を、家族を連れてレンタカーで走り回りました。

一番インパクトが強かったのは、**インディージョーンズ**にも出てくる**ペトラ遺跡**でした。５０メートルぐらいの高さの崖に囲まれた、強大な岩山の裂け目ともいうような、幅５メートルから１０メートルのくねくねした道を延々歩くと、突然目の前から明るい光が差し込む開けた場所に出ます。道の先の広場の正面には、大きな岩山がそびえたち、その岩山にはアッと驚くような見事な彫刻が施された遺跡がそびえたっています。歴史的に伝説となっていながらなかなか見つからなかった有名な**世界遺跡**です。

ワディーラムに行くと、まさにアメリカの西部劇に出てくるような景色が広がります。赤茶けた色の岩や砂の砂漠が広がり、岩肌には、今から３０００年以上前の人が書いた絵のような文字のようなものがそのまま無造作に残っています。

私は、ここですごい経験をしました。というのは、レンタカーのガソリンがこの後の死海への移動には不十分な量になったのです。現地の人に聞くと近くにはガソリンスタンドはないとのこと。私が困っていると、彼は私に車でついて来いといいます。彼の後をついていくと、小屋の前で止まりました。小屋の中にはドラム缶があり、彼はそのドラム缶にホースをさし、反対側の端を口に入れて吸い込みました。するとホースからガソリンが流れ出て、彼は素早くそのホースを車の給油口に。彼は自宅用のガソリンを分けてくださったのでした。私だったら見知らぬ人のために口の中にガソリンが入れてまで親切にできないなと感じました。その方は、きっとしばらくの間食べ物の味がしないぐらい口の中がガソリン臭かったと思います。映画に出る景色も心に残りますが、私が一番印象的だったのはそういった**ヨルダンの人の温かさ**でした。

その後の**死海**までのコースは、まさに**十戒**の映画の風景。**シナイ半島**を満喫しました。

死海は、ヨルダン側とイスラエル側に分かれます。私はヨルダン側に行きました。死海では、かつて味わったことのないような**浮遊体験**をしました。死海といえば水に浮かんで新聞を読む写真で有名ですが、しかし、浮かぶのは楽なのですが、顔をあげたいのですが、腰が浮いてきて油断すると顔が水に付きそうになります。顔を水に付けたら、塩分で目がどうなるかは想像できますので、苦労しました。死海は浮かぶには良いけれど泳ぐには不向きな場所でした。歩くと足元はぬるぬるの泥です。その泥を身体中に塗りたくってみんなパックしていました。死海の泥パックや泥石鹸は、世界中でものすごく人気だそうです。

死海から車で数時間走った場所には５メートルぐらいの小ぶりな滝があり、その滝の水はなんと**温泉**でした。子どもたちは温泉のお湯で楽しそうに水泳をしました。

最後に**アラビアのロレンス**に出てくる、**アカバ**です。トルコ領だった難攻不落だったアカバ要塞を、イギリス人だったロレンスが、アラブ人の協力をえて、紅海（レッドシー）側ではなく、砂漠側から攻略したのは有名な話です。もっと巨大な要塞を想像していたのですが、意外と小さくて驚きました。

夜になってアカバの海岸沿いを散歩していると、右側の強大な崖の上に煌々とした明かりが見えます。「アカバの近くにあんな大きな都市があったかな？」と不思議に思って、地元の人に聞くと、あれは**イスラエルの街並み**の明かりだとのこと。

今、まさに、**ハマスとイスラエル**の間では、悲しい出来事が起こっています。**イスラエルの子どもやガザの子どもの命**が心配で、**寝る場所は？食べるものは？医療は？学校は？**と心配は尽きません。ガザとヨルダンは別ですが、近隣の国（ガザは地域）ということでは決して遠くありません。目視できるぐらいに近い距離にある**アラブとイスラエル。石油やスエズ運河などに関する大国の利害**に振り回され、また**何千年にわたるユダヤ教・イスラム教・キリスト教が絡んだ宗教的問題**もあわさって、こんがらがった毛糸のようになっていますが、**一日も早く、子どもたちが安心して生活でき学べる状態**に戻ることを強く願っています。